

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立東高等学校
取り組む課題	B キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現）
評価指標	①希望進路実現率の向上（国公立大学の総合型選抜志望者数・合格率の増加） ②探究活動をはじめとした、全授業における図書館利用回数の向上 ③学校教育自己診断における生徒の主体的な探究活動に対する達成感と自己肯定感の上昇 ④読書活動（年間図書貸出冊数・読書冊数）の増進 ⑤学校教育自己診断における生徒の授業に関する満足度の上昇
計画名	「東創究学」（E-PLANET）構想 ―学校図書館の探究空間創設と自習室の機能強化による東高校のさらなる学究化をめざして―

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	3 進路指導・キャリア教育の充実 （5）令和6年度学校経営推進費事業「東創究学」（E-PLANET）構想 ―学校図書館の探究空間創設と自習室の機能強化による東高校のさらなる学究化を目指して― ※ 令和8年度において、現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率を40%以上にする。 ※ 令和8年度において、図書館を利用した授業を年間50回以上おこなう。 ※ 令和8年度において、学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を85%以上にする。 ※ 令和8年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上にする。（再掲） ※ 令和8年度において、学校教育自己診断（生徒）において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。
事業目標	学校図書館を「学びのハブ」として機能させるために、自習室としての環境を同時に整備するとともに、次の機能を備えた場所にして、生徒の学力向上を図る。 - 第5次大阪府子ども読書活動推進計画に基づいた読書活動の推進を行うと同時に、「総合的な探究の時間」を軸に据えた幅広い分野の書籍を配架し、全教科の探究的な学びにおいて配架資料を十分に活用できる学習センターの機能。 - 生徒の興味を惹く書籍を常に配架することで、生徒が積極的に図書館を利用し、多くの図書を読もうと思えるような、生徒の主体的な読書習慣を確立し、学びの質と生きる力の向上に寄与する読書センターの機能。 - ウェブにある情報だけを鵜呑みにするのではなく、紙の資料に書かれた情報の価値を理解することで、あらゆる分野の多岐にわたる書籍にアクセスし、総合的な学びを質的・量的に支える情報センターの機能。

	4 教室や自宅、公共図書館とは違う「もうひとつの学びの場所」としての学校図書館を意識した、1人1台端末等を用いたデジタルの学びにも十全に対応できる自習センターの機能。 5 上記の4機能を最大限の効率で発揮できるような、自習スペース・学習スペース・情報スペースの3空間をバランスよく配置した探究センターの機能。
整備した設備・物品	・図書館のレイアウトを、南側「E-PLANET」、中央「東高校図書館」、北側「東創究学所」と3つの空間にリファインした。 ・「探究空間(E-PLANET)」としては、壁面ホワイトボードを設置、可動式机・椅子を導入した。 ・従来の自習室については、機能を集約した空間「東創究学所」としてはリニューアルし、その間に図書機能を集約することで、多機能空間を創設することができた。
取組みの主担・実施者	主 担：校長、教頭、首席、探究推進部長 実施者：探究推進部教員、「総合的な探究の時間」授業担当者、進路指導部 図書館運営委員会、各教科全教員、将来構想検討チーム (生徒会・生徒図書委員会を中心とした全校生徒)
本年度の取組内容	①探究スペース「E-PLANET」の創設と活用 「総合的な探究の時間」の授業で10回、普通科目の授業で2回、課外補習で21回(古典探究13回、物理8回)、その他課外活動で3回の計36回の利用が、放課後等に生徒が自主的に週に2回程度利用した。 ②総合型選抜対策講座の実施(3/26～3/28 実施予定) 株式会社カンザキメソッド代表の神崎史彦氏に依頼し、2年生を対象に実施予定である。 ③自習空間「東創究学所」の創設と稼働 例年以上に、常時20名ほど放課後や昼休みに自習室を利用している。 ④図書館のレイアウト変更
成果の検証方法と評価指標	①令和6年度卒業生で、現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率を15%以上にする。 ②図書館を利用した授業を年間30回以上おこなう。[R3 記録なし R4 5回 R5 21回] ③学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の肯定的回答の割合を75%以上にする。[R4 79% R5 78%] ④生徒の図書館貸出冊数を1,500冊以上とする。[R3 724冊 R4 852冊 R5 1443冊] ⑤学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を80%以上にする。[R3 83% R4 83% R5 84%]
自己評価	・現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率は36%であった。…【◎】 ・「総合的な探究の時間」の授業で10回、普通科目の授業で2回、課外補習で21回(古典探究13回、物理8回)、その他課外活動で3回の計36回の利用があり、空き時間(放課後等)に生徒が自主的に利用することが週に2回程度見受けられた。…【○】 ・学校教育自己診断(生徒)における「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」生徒の指数は76%であった。…【○】 ・図書館貸出冊数は1,658冊であり、前年度比215冊の増加である。…【◎】 ・学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒85%であった。…【◎】
次年度に向けて	①総合型選抜を受験する生徒を増加させることと探究活動・図書館利用との関連性がやや

	希薄となった。 ②E-PLANET を授業で利用する回数を「総合的な探究の時間」以外で増やすことが、想定を下回った。年度初めより授業で気軽に利用できるよう全教員に利用を促していき、積極的な活用を行う。 ③書架の増加に伴い、結果的に書架でコンセントそのものを塞ぐこととなった。生徒の導線を妨げないよう、工夫して延長ケーブルのコードを配置するよう計画する。 ④防音カーテンの防音効果だけでは全ての音を塞ぎきれなかった。6段書架の配置の工夫により、東創究学所とE-PLANETとの間に「壁」を作り、書架の蔵書の吸音効果も含めて防音対策を検討する。 ⑤進路指導部との協力体制を今まで以上に密にし、生徒へ進路指導・探究推進両分掌から積極的に情報発信を行う。
--	--

3. 事業費報告

今年度事業費総額	4,459,332	円
----------	-----------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
	1 報償費	1	総合型選抜対策講座 講師謝金	¥180,000	1	¥180,000
		2				
		3				
					小計	180000
	3 消耗需用費	1	ワークテーブルcommune 604072-W PW（配送料等含）	¥39,745	47	¥1,868,015
		2	Mチェア FM/265 モスグリーン（配送料等含）	¥19,588	49	¥959,812
		3	サンゲツ遮音カーテンリマⅡ（レール設置費用等含）	¥216,700	1	¥216,700
		4	書籍（東創究学所向け参考書）	¥43,395	1	¥43,395
		5	書籍（E-PLANET向け書籍）	¥15,840	1	¥15,840
					小計	3103762
	5 役務費	1	書棚運搬費	¥220,000	1	¥220,000
		2				
		3				
					小計	220000
	8 備品購入費	1	ポール付けホワイトボード縦5分割（施工費含）	¥858,000	1	¥858,000
		2				
		3				
					小計	858000
	9 工事請負費	1	図書館コンセント増設補修工事	¥97,570	1	¥97,570
		2				
		3				
					小計	97570
					合計	¥4,459,332